

ヘミングウェイの短編を読む

「失われた世代」の文学

講座内容

第一次世界大戦後の社会や価値観の変化を描き出した「失われた世代」(lost generation)を代表する作家アーネスト・ヘミングウェイの作品を取り上げ、ハードボイルドな文体で描かれた英文(対訳)を読み進めていきます。アメリカ社会におけるアメリカ先住民族の衰退、戦後社会におけるジェンダーの変容、第一次世界大戦からの帰還兵の苦悩といったテーマから物語を読み解いていきます。

期 間	5月17日～7月5日	受講料	9,000円
曜 日	土曜日	定 員	20名
時 間	10:00～11:30	会 場	横浜・関内キャンパス
回 数	全6回	持ち物	筆記用具、辞書
教 材	講師が毎回資料を用意します。		
備 考	新聞記者をしていたヘミングウェイの文体は、読者に伝わりやすい簡潔な英語表現が多用されています。比較的容易な英文で描かれていることから、英語を読むのは久しぶりという方でも、物語世界に入っていくやすいと言えます。英語が苦手という方でも、楽しんで受講できるように対訳を用意しておきます。		

講座スケジュール

回数	日 程	内 容	担当講師
1	5月17日(土)	「インディアン・キャンプ」("Indian Camp," 1925) 白人医師アダムズとその兄弟のジョージ、息子ニックは、ミシガン湖周辺に住むアメリカ先住民族の村で難産に苦しむ妊婦を助けるために、夜更けに村へと向かう。植民地政策と先住民族の在り方について考察を深める。	倉林 秀男
2	5月24日(土)	「雨の中のねこ」("Cat in the Rain," 1925) ヨーロッパを旅するアメリカ人の夫婦が、イタリアで滞在したホテルの軒先で雨に濡れた一匹の子ねこに遭遇する。女性と男性の性役割、自立、ファッションといった観点から、1920年代の世相を理解する。	倉林 秀男
3	5月31日(土)	「白い象のような山々」("Hills Like White Elephants," 1927) スペインを列車で旅するアメリカ人の男女がマドリッド行き列車を待つ間に起こった出来事を描いた作品。カトリックが多数を占めるスペインを背景に、背徳的な会話を交わす男女間の力関係の変容を読み解いていく。	倉林 秀男
4	6月14日(土)	「贈り物のカナリア」("A Canary for One," 1927) ヘミングウェイの一度目の離婚時期に描かれた作品。別離を決意したアメリカ人の男女の殺伐とした会話と、心象を反映する車窓からの眺めがアイロニカルな雰囲気を生み出す作品。ハードボイルドな作風を読み解く。	古谷 裕美
5	6月28日(土)	「海の変容」("The Sea Change," 1931) 本作には、ジェンダーの揺らぎと身体変容といった、ヘミングウェイの後期作品に描かれるテーマが提示されている。髪型を変え、日焼けするなどの身体変容および、アイデンティティの不安定性について考察を深める。	古谷 裕美
6	7月 5日(土)	「異国にて」("In Another Country," 1927) 第一次世界大戦に参戦した後に、イタリアの病院でリハビリに励む復員兵たちを描いた作品。戦争の爪痕やスペイン風邪の猛威が克明に描かれた物語を読み進め、1920年代、第一次世界大戦後の世相を深く理解する。	古谷 裕美

講師紹介



倉林 秀男(くらばやし ひでお)

杏林大学外国語学部教授 博士(英語学)

専門は文体論。主に文学作品を言語学的に読解することで作品理解に結びつけることについて研究をしている。著書(共著含む)に『ヘミングウェイで学ぶ英文法』(アスク)、『ヘミングウェイで学ぶ英文法2』(アスク)、『英文解釈のテオリア』(Z会)、『名作で身につく心に残る英単語』(くろしお出版)などがある。



古谷 裕美(ふるたに ひろみ)

本学建築・環境学部准教授 博士(文学)

20世紀アメリカ文学研究を専門とし、ジェンダー・セクシュアリティ研究という観点から、身体表象分析を行なっている。単著は『ヘミングウェイと逸脱した身体—権力・棄却・ジェンダー—』(関東学院大学出版会)があり、共著には『モダンの身体—マシーン・アート・メディア』(小島遊書房)、『ヘミングウェイ批評—新世紀の羅針盤』(小島遊書房)などがある。